第10回　JAあきた白神女性部大会

第10回JAあきた白神女性部大会が、1月23日にプラザ都で開催され、昨年の活動報告や記念講演などが行われました。

大会には各地区の女性部員250名が参加。はじめに佐々木博子女性部長が、「1年間の活動を振り返ると、幅広く様々な取り組みを行ってきました。農業は人と人との繋がり、仲間同士の絆に支えてられており、女性部活動を通じて、その精神を次代に引き継いでいきたい。」と挨拶しました。また坂本常務からも、「農業政策が大きく変化する中で、地域農業を守るため、JAと行政と地域のより一層の連携が必要不可欠。その意味でも、女性部員の力が重要となる。」と話しました。

◀女性部活動を含め、地域力の重要性を語る佐々木部長

◀人と人とを結ぶ、農業の素晴らしさを話す松本さん

そのあと記念講演として、家の光大会『読者体験手記・優秀賞』に輝いた、盛岡市の松本直子さんが講演を行いました。非農家の家から大規模リンゴ農家に嫁ぎ、直売活動や農地を利用した地域貢献活動を通じて、農業の素晴らしさを話してくれました。

また、おしゃれ講習では、ウィッグを利用した若返り術が紹介された後、昼食を兼ねた懇親会が行われ、各地区の女性部員が交流を深めました。

午後からは佐々木茂子さん（能代市常盤）による、女性部体験活動が発表され、一昨年の種苗交換会で表彰された常盤小学校児童への食農教育活動と、それを通して感じた女性部・地域力の重要性を紹介しました。

また、淳城西小学校5年生の代表6名が、昨年ジャガイモ・サツマイモ・ねぎ・カボチャの植え付けから収穫までを行った、農業体験を発表しました。児童たちは「普段食べているものが、どのように作られ、どれほどの作業が必要なのかを知りました。これからも農家の方に感謝して、食べたいと思います。」と感想を話してくれました。

▶農業体験活動を発表する、淳城西小学校5年生6名